

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同送付先)	〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.nippan-inc.co.jp/ir/koukoku.html

お知らせ

株式関係のお手続き用紙のご請求は、
次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

☎ 0120-244-479 (三菱UFJ信託銀行本店証券代行部) (通話料無料)

☎ 0120-684-479 (三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部) (通話料無料)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。



第50期

事業活動のご報告

平成19年4月1日～平成20年3月31日

戦略商品の提案営業推進と新分野開拓により、
収益の向上を図っていきます。



代表取締役社長
石川 隆重

当期の概況について

当期の業績は、売上高442億68百万円(前期比0.7%減)、営業利益10億77百万円(前期比1.9%増)、経常利益10億80百万円(前期比1.5%増)、当期純利益6億06百万円(前期比10.7%増)で、売上高では若干前期に及ばなかったものの、利益面では前期を上回ることができました。

事業別に営業概況を見ますと、オートパーツ事業では、国内自動車販売の減少に伴い自動車補修部品市場の需要減少や価格競争などにより引き続き厳しさを増しています。自社ブランドである**AGREEN**ブランド商品をはじめ戦略商品拡販を強化してきましたが、ばねを主体とする大型車部品の減少をカバーするには至らず、減収という結果となりました。

プレジジョンパーツ事業では、海外市場での販売が好調な自動車産業をはじめ関連産業の好調が持続しています。その中で、自動車の環境関連部品など成長分野に向けた戦略商品が順調に売上を伸ばし

ました。

IT事業では、次世代の市場・技術環境を先取りすべくIT技術を活用した医療・製造業向け支援システムの開発に努めました。また、光分野向け精密加工品や製造業向け測定機器、医療・福祉業界向けの情報機器を提供するほか、デジタル中国地図を軸とした新たなビジネスモデルの構築に取り組み、将来の収益基盤の育成に努めてきました。

一方、合理化・コスト削減の徹底を図るためのプロジェクト活動を展開し、収益性の維持向上に努めてきた結果、5期連続の増益を達成しました。

なお、3月21日に子会社NHKインフォテックシンガポール有限公司を解散し清算することを決議しました。海外戦略再構築策として、より成長性のある市場に経営資源を集中させるため発展的解消することとしたもので、これを契機に海外市場深耕のスピードアップを図っていきます。

今期の事業戦略について

今期の業績予想としては、売上高446億円(前期比0.7%増)、営業利益11億50百万円(前期比6.7%増)、経常利益11億20百万円(前期比3.6%増)、当期純利益6億05百万円(前期比0.2%減)を見込んでいます。

ニッパングループを取り巻く経営環境は予断を許しませんが、いかなる状況下にあっても「品質はお取引の原点」という基本姿勢を貫いて業績予想を必達し、株主のみなさまの期待と信頼に応えていきます。

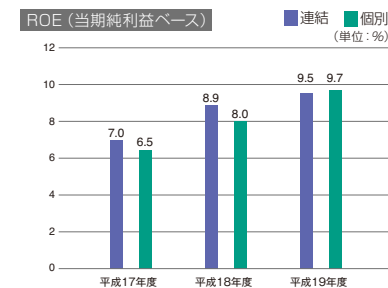
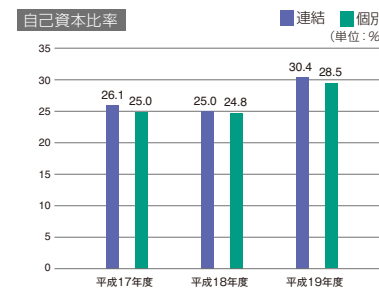
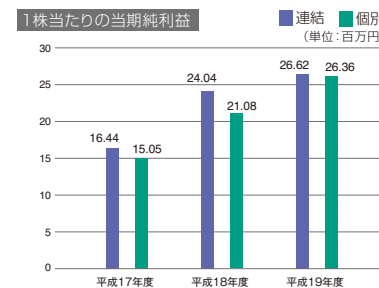
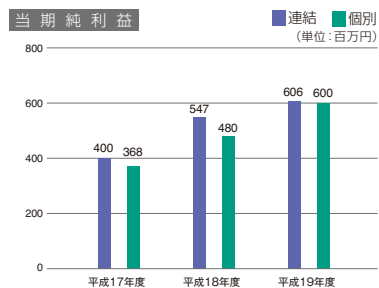
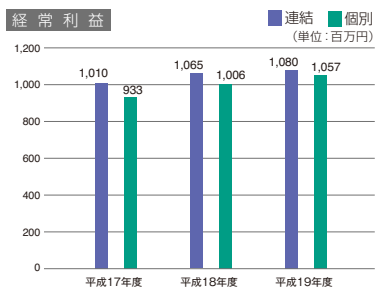
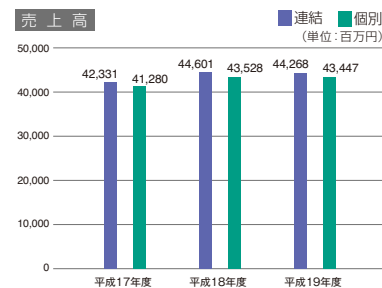
オートパーツ事業では、引き続きバリューチェーンの強化拡充を目標として、自動車リース業界等との連携強化による大手整備工場・地域部品商とのコラボレーション戦略により、**AGREEN**商品など乗用車向け戦略商品の拡販を図ります。また、モータースポーツブランド**Enduro-Tech**商品の量販店、用品会社への新規ルートの開拓、海外市場展開のスピードアップなど、新たな収益基盤の確立に取り組んでいきます。

プレジジョンパーツ事業では、成長路線の確立をテーマに、インジェクター用部品やアンチロックブレーキシステム用部品などの戦略商品と重

点客先への売上拡大を進め、燃料電池関連など将来性のある商材の開発に注力していきます。品質優位体制の確立策としては、協力メーカーと一体となって品質管理能力、評価体制の強化を推進します。また、課題である海外事業の創出や具体的展開に取り組み、全体として高収益事業体質への転換を図ります。

IT事業では、機材・加工・情報という3分野のソリューションで、企業の競争力、品質向上のための商品・サービスの創出と提供に取り組みます。機材ソリューションでは検査、省エネなど一連の製造業支援システムの提案、加工ソリューションでは超精密加工へ継続して取り組みます。情報ソリューションでは中国地図を軸としたWeb・携帯ベースのサービス構築など、新たなビジネスモデルの創出を急ぎます。

一方で、組織、店舗網の見直しやプロジェクト活動による経費削減の徹底、借入金・在庫等資産・負債の圧縮などの収益向上、合理化施策を実施し、強固な経営基盤確立を図っていきます。

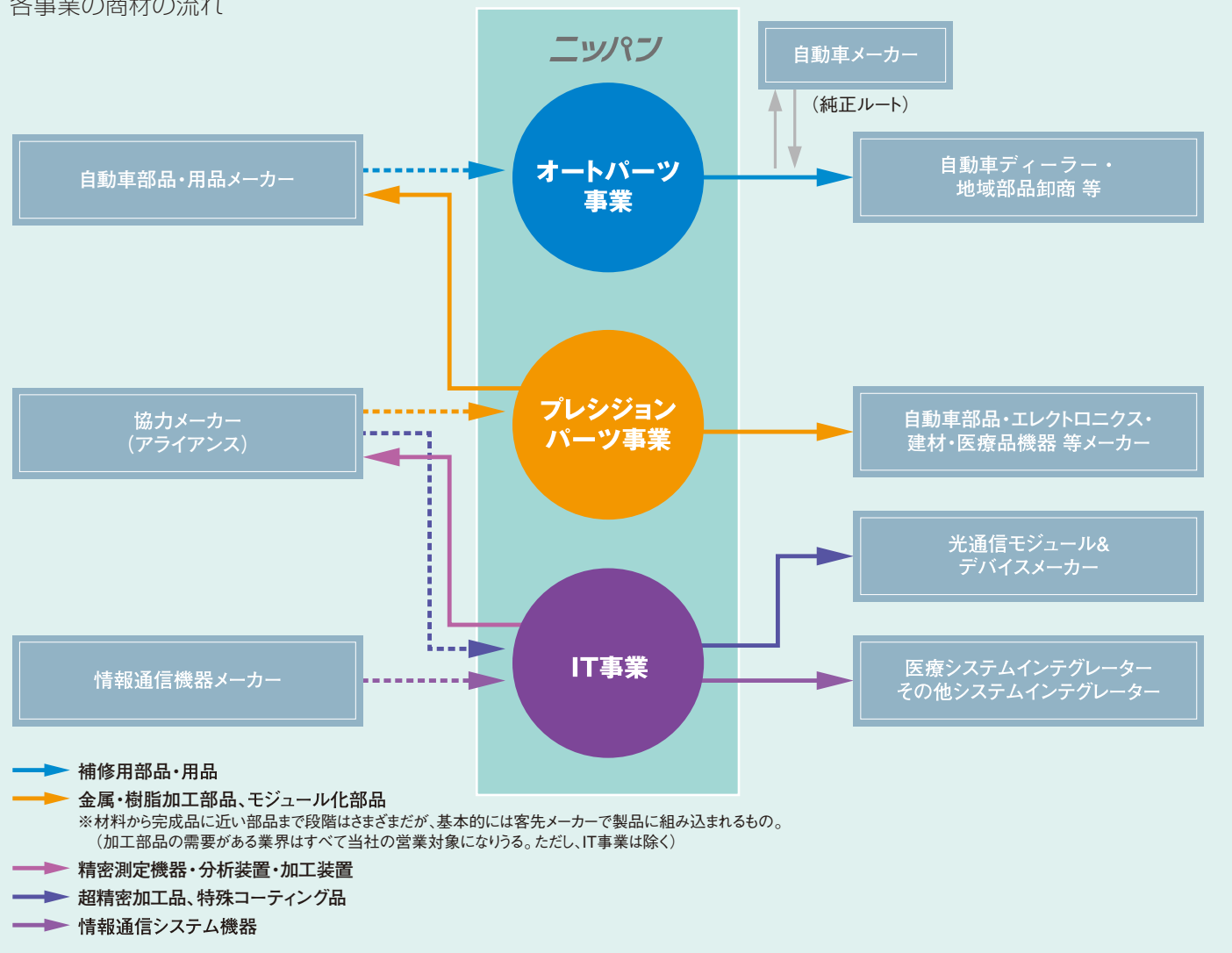


特集1 5分でわかるニッパンビジネス

多彩な事業を展開する技術商社ニッパン。

ここでは、あらためてニッパンの各事業の特徴的な商品と流れをわかりやすくご紹介します。

各事業の商材の流れ



事業内容

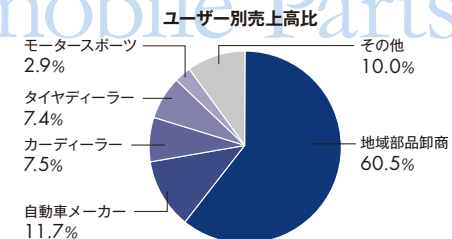
オートパーツ事業

豊富な実績とマーケティング力を活かして

自動車補修用部品・用品を主に整備業界などのアフターマーケットに向けて提供しています。なかでもオリジナルブランド **AGREEN** シリーズは、世界トップレベルのメーカーとの提携によって生まれた高品質かつコストパフォーマンスの高い商品として市場において評価を得ています。

また取引先に向けて、市場動向や商品・技術知識に関するセミナーを主催するなど、顧客の販売活動を支援するコラボレーションを積極的に推進しています。

その他、北米を中心とするモータースポーツ市場やアジア・中近東の補修用部品市場など海外市場の開拓も積極的に行っています。

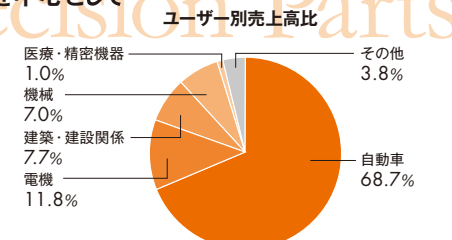


プレジジョンパーツ事業

蓄積された知見と技術力による最適加工提案を中心として

素材から製品化するまでの中間加工段階を事業領域として、金属・樹脂製機械加工部品を自動車部品メーカー・エレクトロニクス・建材・医療精密機器メーカーといった多岐にわたる業界に提供しています。また、自社で生産工場を持たずに企画・提案・開発を行い、開発提案営業力を強めています。

近年では、環境対応に配慮した低公害エンジン用部品やばねに関する豊富な知識・技術をベースにしたモジュール化製品など、各種機械加工に関する豊かな知見と高い技術力をもつ協力メーカーのネットワークをフルに活用しています。



IT事業

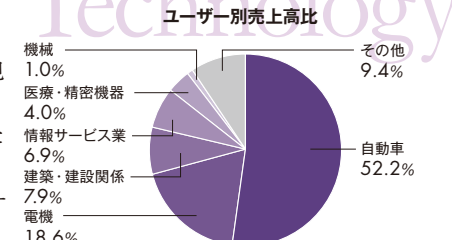
商品開発力を活かし、新市場の創造を目指して

「情報」「加工」「機材」の3分野でソリューション事業を展開しています。

「情報」分野では、長年の画像関連機器販売のノウハウをもとに、情報の視覚化および知覚化を実現するための情報通信機器やソフトウェア、システムを統合的にご提案します。

「加工」分野では、光通信分野で培った超精密切削加工技術や特殊コーティング技術を中心とした加工品を提供しています。さらに加工品の測定検査技術も含めた総合的なサービスをご提案します。

「機材」分野では、「省力化・自動化」「デジタル化・システム化・ネットワーク化」などお客様の多様なニーズにマッチする試験器や測定機を提供しています。またカスタマイズのご要望にも幅広くお応えします。



特集2 ニッパン商品ができるまで 提案型技術商社を標榜するニッパン。

高度なマーケティング機能・商品企画機能に加えて、社内に蓄積した高い技術評価ノウハウを駆使することで、技術力が高い協力メーカーとのコラボレーションにより新たな市場を創造しています。
この特集ではフォトレポート形式で、ニッパンの商品開発事例とその特徴をわかりやすくお伝えいたします。

社内開発会議



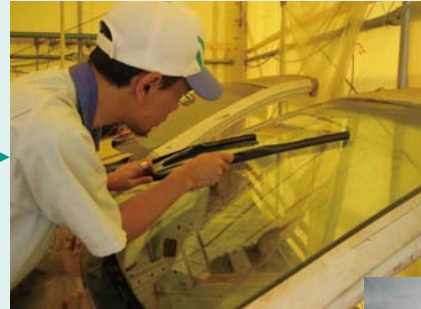
今回の商品開発は好評だった従来品のリニューアルでした。開発にあたっては、新規性、デザイン、コスト、安全性などさまざまな観点から従来品の課題点を洗い出すために、販売代理店様やユーザー様、社内モニタから数多くの意見を収集しました。

試作開発



フラットワイパーの性能は、複合R形状によって大きく左右されます。求める追従性能や反転性能を発揮する複合Rの形状を作り出すために、分圧力を生み出す部品を手で曲げたり、パナーであぶって強度を変えるなどさまざまな試行錯誤を繰り返します。

試験



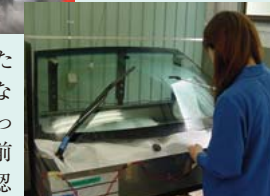
試験によって、試作品が求める性能を発揮しているかを検証します。特に高速性能については、JARI(日本自動車研究所)のテストコースで複合Rの形状をチューニングしながら何度も走行試験(最高速度180km/h)を行います。



量産品出荷前品質検査



組み立て精度が性能に影響するため、各部品の公差認定と見直しを行いながら、組み立てを行います。組み上がった後は、払拭性、耐久性などを出荷前に最終的に検査します。払拭性の確認時には、購入後すぐに高い性能を発揮できるように「慣らし」を行っています。



Endura-Tech フラットワイパー



フラットなエアロデザインをさらに進化させ、スポイラー効果を発揮することで、高速走行時の風きり音や浮きあがりを防ぐスタイリッシュなブレードです。

アーム結合部には、世界初のローリング構造を採用することで的確な拭き上げ効果を得ているほか、リフィール部にグラファイトコートを施すなど、耐摩擦性・ロングライフに優れた高い付加価値が評価されています。

Point

特に重視したのは、**実際使用しているユーザーの声**。直接ヒアリングを行い、細部にわたる改良点を抽出することができました。協力メーカー様には技術面、コスト面において高い目標を提案・達成いただいたことで、品質と価格のバランスに優れた商品を市場に提供することができました。

Voice

ご好評をいただいた従来品をより進化させるために、当社マーケティングと協力メーカー様との討議を何度も繰り返し、従来品の不足している部分を徹底的に取り除くことを目的として開発をスタートしました。また昨今では万一の事故の際、運転手だけではなく、歩行者の被害を極力少なくすることが求められています。そのため、ワイパー全体を曲線形状のゴムで覆い、固まり感のあるデザインと突起物のないフラット構造で歩行者保護性能を向上させました。今後は、国産車への適用を拡大させるとともに、外国車用の開発にも着手していきたいと思います。

オートパーツ営業本部 浦坂光昭



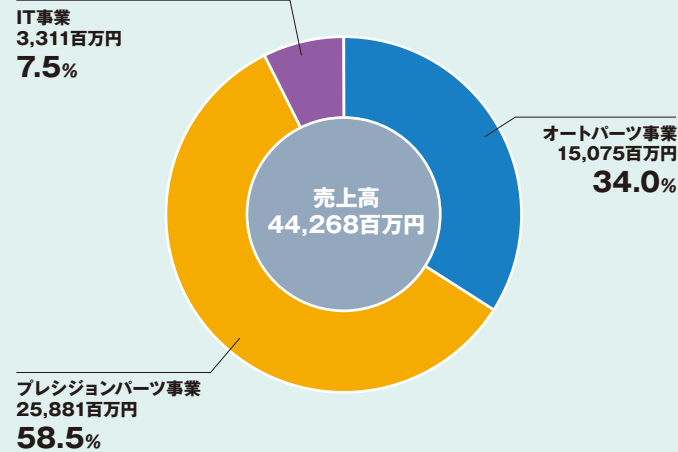
Point

性能確保は当然のこととして、汎用品であるがゆえに**いかに多くの車種に対応できるかも大きな課題**でした。開発品がどの車両を拭けるのか、どこまで拭けるのか、追従性能は出るのか、などを確認することが不可欠でした。

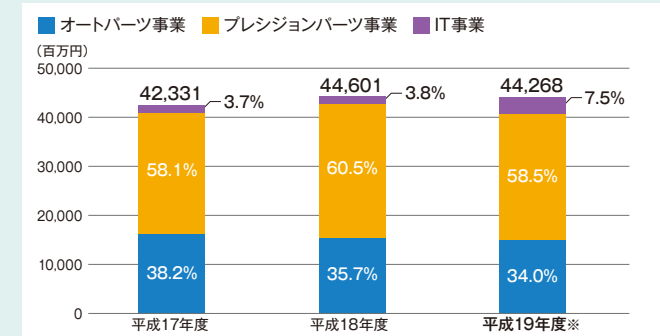
今回は、1995年以降販売された790車種(トラック、軽トラックを除く。1車種型式別を含む)から、手当たり次第実車を見つけ確認を実施。約230車に対象車種を絞り込みました。

戦略商品の市場開拓が順調に推移し、各事業において、戦略商品が売上高に占める割合が増加しました。

セグメント別売上高構成比



売上高構成比率の推移 (通期)



*機材設備関連商品をプレジジョンパーツ事業からIT事業へ移管しました。

オートパーツ事業

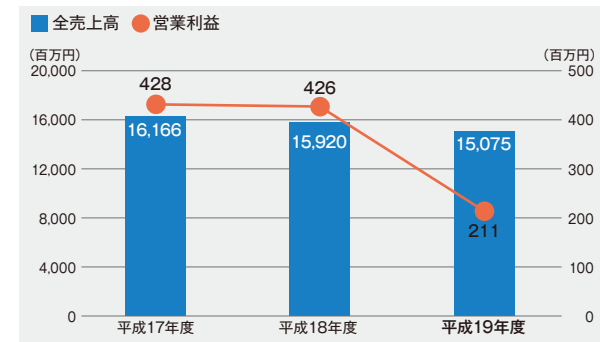
Automobile Parts

AGREEN 商品をはじめとする乗用車向け戦略商品の売上高は、38億46百万円 (前期比4.0%増) と堅調に推移しましたが、補修用ばね、タイヤチェーン、燃料サブタンクなどが前期比10%以上の大きな売り上げ減により、事業全体の売上高は15億75百万円 (前期比5.3%減)、営業利益は2億11百万円 (前期比50.4%減) となりました。



Endura-Tech サスペンションキット グリーンテンショナーベアリング

事業別売上高と営業利益 (通期)



プレジジョンパーツ事業

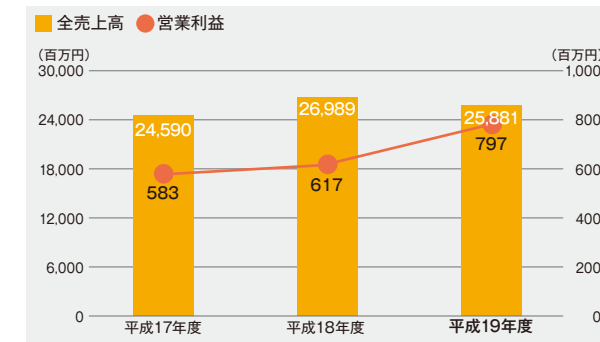
Precision Parts

戦略商品では、インジェクター部品やアンチロックブレーキシステム用部品が伸長し、69億80百万円 (前期比3.9%増) となり、また、ねじなどファスナー類も好調に推移しました。なお、当期より機材設備関連商品 (当期実績17億94百万円) の取扱いをIT事業に移管したことにより、事業全体の売上高は258億81百万円 (前期比4.1%減)、営業利益は7億97百万円 (前期比29.1%増) となりました。



フレキシブルスタンド コネクターASSY

事業別売上高と営業利益 (通期)



IT事業

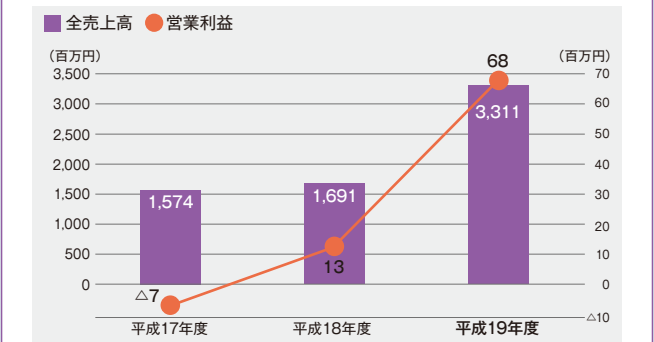
Information Technology

情報関連では液晶ディスプレイやその他パソコン周辺機器、加工関連では光分野向け部品が減収となりました。事業全体では、当期より機材設備関連商品の取扱いをプレジジョンパーツ事業からIT事業に移管したことにより、売上高は33億11百万円 (前期比95.8%増)、営業利益は68百万円 (前期比414.1%増) となりました。



医療画像参照用カート デジタル顕微鏡

事業別売上高と営業利益 (通期)



連結財務諸表（要約）

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	前連結会計年度末 (平成19年3月31日)	当連結会計年度末 (平成20年3月31日)	増減
資産の部				
流動資産		18,423	14,862	△3,561
固定資産		6,662	6,209	△452
有形固定資産		4,944	4,837	△107
無形固定資産		40	39	△1
投資その他の資産		1,676	1,332	△343
資産合計		25,085	21,071	△4,013
負債の部				
流動負債		18,252	14,312	△3,939
固定負債		493	293	△199
負債合計		18,745	14,606	△4,139
純資産の部				
株主資本		5,811	6,257	445
資本金		2,040	2,040	—
資本剰余金		1,251	1,251	—
利益剰余金		2,526	2,973	446
自己株式		△6	△7	△1
評価・換算差額等		460	148	△312
少数株主持分		66	60	△6
純資産合計		6,339	6,465	125
負債・純資産合計		25,085	21,071	△4,013

POINT 流動資産

前連結会計年度末に比べ現金及び預金が29億95百万円減少しております。

POINT 流動負債

前連結会計年度末に比べ支払手形及び買掛金が29億89百万円、短期借入金が10億50百万円それぞれ減少しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前連結会計年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	増減
売上高		44,601	44,268	△333
売上原価		36,887	36,674	△212
売上総利益		7,713	7,593	△120
販売費及び一般管理費		6,656	6,516	△140
営業利益		1,057	1,077	19
営業外収益		117	135	18
営業外費用		109	132	22
経常利益		1,065	1,080	15
特別利益		397	0	△396
特別損失		500	11	△488
税金等調整前当期純利益		961	1,069	108
法人税、住民税及び事業税		469	404	△64
法人税等調整額		△53	62	116
少数株主損益		△1	△4	△2
当期純利益		547	606	58

POINT 特別利益

前連結会計年度の主な特別利益は、固定資産売却益3億56百万円であります。

POINT 特別損失

前連結会計年度の主な特別損失は、減損損失4億96百万円であります。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前連結会計年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,714	△1,715	△5,430
投資活動によるキャッシュ・フロー		232	△59	△292
財務活動によるキャッシュ・フロー		△943	△1,213	△269
現金及び現金同等物に係る換算差額		1	△7	△8
現金及び現金同等物の増減額		3,004	△2,995	△6,000
現金及び現金同等物の期首残高		1,212	4,217	3,004
現金及び現金同等物の期末残高		4,217	1,222	△2,995

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	2,040	1,251	2,141	△5	5,427	513	—	△11	501	70	6,000
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△136		△136						△136
役員賞与			△25		△25						△25
当期純利益			547		547						547
自己株式の取得				△1	△1						△1
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△92	42	8	△40	△4	△45
連結会計年度中の変動額合計			385	△1	384	△92	42	8	△40	△4	338
平成19年3月31日残高	2,040	1,251	2,526	△6	5,811	421	42	△2	460	66	6,339

当連結会計年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	2,040	1,251	2,526	△6	5,811	421	42	△2	460	66	6,339
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△159		△159						△159
当期純利益			606		606						606
自己株式の取得				△1	△1						△1
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△229	△73	△9	△312	△6	△319
連結会計年度中の変動額合計			446	△1	445	△229	△73	△9	△312	△6	125
平成20年3月31日残高	2,040	1,251	2,973	△7	6,257	191	△31	△12	148	60	6,465

個別財務諸表（要約）

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	期 別	前 期 (平成19年3月31日)	当 期 (平成20年3月31日)	増 減
資産の部				
流動資産		18,166	15,855	△2,311
固定資産		6,560	6,120	△439
有形固定資産		4,775	4,681	△94
無形固定資産		38	37	△0
投資その他の資産		1,746	1,401	△344
資産合計		24,727	21,976	△2,751
負債の部				
流動負債		18,146	15,463	△2,683
固定負債		458	253	△204
負債合計		18,604	15,717	△2,887
純資産の部				
株主資本		5,659	6,098	439
資本金		2,040	2,040	-
資本剰余金		1,251	1,251	-
利益剰余金		2,373	2,814	440
自己株式		△6	△7	△1
評価・換算差額等		463	160	△302
純資産合計		6,122	6,259	136
負債・純資産合計		24,727	21,976	△2,751

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	前 期 (自 平成18年4月 1日 至 平成19年3月31日)	当 期 (自 平成19年4月 1日 至 平成20年3月31日)	増 減
売上高		43,528	43,447	△81
売上原価		36,108	36,087	△21
売上総利益		7,419	7,359	△60
販売費及び一般管理費		6,435	6,316	△118
営業利益		984	1,043	58
営業外収益		108	120	12
営業外費用		85	106	20
経常利益		1,006	1,057	50
特別利益		394	0	△394
特別損失		500	12	△487
税引前当期純利益		901	1,045	144
法人税、住民税及び事業税		426	379	△47
法人税等調整額		△5	65	71
当期純利益		480	600	120

株主資本等変動計算書

前事業年度(自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本									評価・換算差額等			純資産合計		
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	その他利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益		評価・換算差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金合計		建物圧縮積立金	土地圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金							利益剰余金合計
平成18年3月31日残高	2,040	1,251	1,251	318	255	161	163	1,157	2,056	△5	5,342	513	-	513	5,856
事業年度中の変動額															
剰余金の配当								△136	△136		△136				△136
役員賞与								△25	△25		△25				△25
圧縮積立金の取崩					△30	△7		37	-		-				-
当期純利益								480	480		480				480
自己株式の取得										△1	△1				△1
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)												△92	42	△49	△49
事業年度中の変動額合計					△30	△7		355	317	△1	316	△92	42	△49	266
平成19年3月31日残高	2,040	1,251	1,251	318	225	153	163	1,512	2,373	△6	5,659	421	42	463	6,122

当事業年度(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本									評価・換算差額等			純資産合計		
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	その他利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益		評価・換算差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金合計		建物圧縮積立金	土地圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金							利益剰余金合計
平成19年3月31日残高	2,040	1,251	1,251	318	225	153	163	1,512	2,373	△6	5,659	421	42	463	6,122
事業年度中の変動額															
剰余金の配当								△159	△159		△159				△159
圧縮積立金の取崩					△9			9	-		-				-
当期純利益								600	600		600				600
自己株式の取得										△1	△1				△1
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)												△229	△73	△302	△302
事業年度中の変動額合計					△9			450	440	△1	439	△229	△73	△302	136
平成20年3月31日残高	2,040	1,251	1,251	318	215	153	163	1,963	2,814	△7	6,098	191	△31	160	6,259

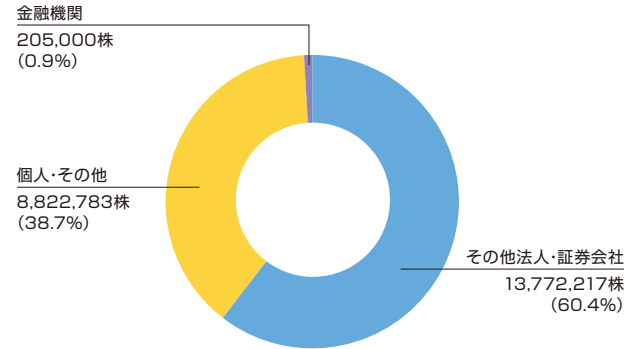
株式の状況

- 会社が発行する株式の総数…………… 80,000,000 株
- 発行済株式総数……………22,800,000 株
- 株主数…………… 1,155名

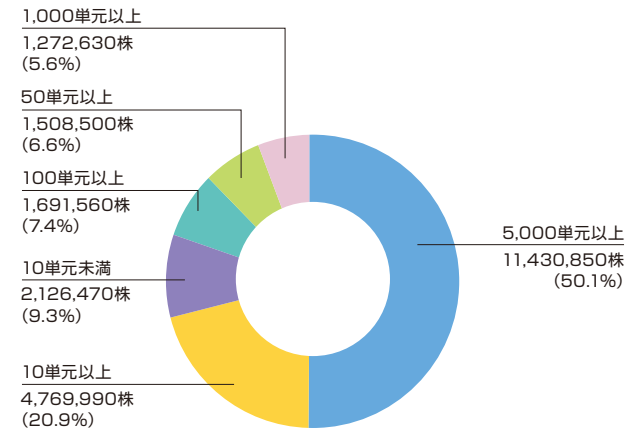
大株主の状況 (上位7名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
日本発条株式会社	11,430,850株	50.14%
ニッパン従業員持株会	1,272,630株	5.58%
株式会社原田不動産商事	450,000株	1.97%
株式会社トープラ	314,000株	1.38%
ニッパン仕入先持株会	271,000株	1.19%
個人株主	155,000株	0.68%
大和産業株式会社	154,000株	0.68%

所有者別株式数分布



所有数別株式数分布



会社概要

商号 日発販売株式会社 **ニッパン**
 NHK SALES CO., LTD.
 設立 昭和34 (1959) 年5月14日
 代表者 代表取締役社長 石川 隆重
 資本金 2,040百万円
 本社 〒135-0051 東京都江東区枝川2-13-1
 従業員数 348名
 事業内容 自動車および各種機械、機器類の部品、付属品販売業
 取引銀行 みずほコーポレート銀行
 三菱東京UFJ銀行
 三井住友銀行
 関連会社 株式会社東洋富士製作所
 ニッパンビジネスサポート株式会社
 アルプススクリュー株式会社
 NHKインテックス社 (アメリカ)
 NHKインフォテックシンガポール有限公司 (シンガポール)
 タイニッパン有限公司 (タイ)

役員 (平成20年6月26日現在)

代表取締役社長 石川 隆重
 取締役 天木 武彦
 取締役常務執行役員 菅原 嗣高
 取締役常務執行役員 柴田 吉則
 取締役常務執行役員 佐々木 孝
 取締役常務執行役員 西岡 博司
 常務執行役員 神保 雄二
 執行役員 高田 美隆
 執行役員 井草 正明
 執行役員 藤澤 修二
 執行役員 三浦 順一
 常勤監査役 増田 鈴夫
 監査役 長澤 國雄
 監査役 村川 正記

事業所

